

■村井弦奇 奇人。百科全書家で、大ベストセラー「食道楽」後、食と身体の研究に没入、生食・断食・穴居まで実践。

むらいげんさい

8月18日政変 1863＝ 三河国豊橋で、代々吉田藩校の儒者・村井清と勢以の長男に生まれる。幼名小太郎。

大政奉還・1867＝ 4歳：祖父が隠居し、父が家督を相続。

明治維新・1868＝ 5歳：勤王方に転じた藩主の東征に従って一家で江戸へ向かい、上野戦争を目撃。彰義隊に加わるなどの脱藩者が出た責任を負われ、父が解任・謹慎の処分を受けて隠居したため、家督を相続。

戊辰戦争終・1869＝ 6歳：謹慎が解かれた父が藩庁に復帰し藩政改革の中で要職を歴任。

初の日刊新聞1870＝ 7歳：祖父が死去。父が東京在勤となる。

廃藩置県・1871＝ 8歳：父が再び豊橋在勤後、職を免じられ、

学問のすすめ1872＝ 9歳：一家で東京へ移住。小学第五校に入学し、寛と改名。また、塩谷時敏に漢学を学ぶ。父は巢鴨に土地を求め、綿羊や兎を飼育し、小石川に諸桑茶園を購入。妹茂子誕生。

明治6年政変 1873＝10歳：小学第五校を退学し、ロシア人ニコライの駿河台学校に入学。

佐賀の乱・1874＝11歳：東京外国語学校への入校が認められる。父が漢学塾を開き、渋沢栄一の従兄弟の子らに教授。

初の民間工場1875＝12歳：父が渋沢栄一の東京第一国立銀行の書記課に出勤し、「日本史略」全五冊以後、次々啓蒙書を出版。

西南戦争・1877＝14歳：父の漢学塾に渋沢栄一の子らが入門。妹稲子誕生。

大久保暗殺・1878＝15歳：東京外国語学校の寄宿舎に入る。かたわら、蒲生精庵・信夫恕軒・小野湖山らについて漢学を学ぶ。

沖縄県編入・1879＝16歳：父が渋沢栄一の別邸に移住、渋沢家の子どもたちを教える。\_東京外国語学校の試験で優秀成績を収める。

1880＝17歳：この頃から脳病(鬱病)が始まり、一時帰宅。

明治14年政変1881＝18歳：退校を勧告され、下宿してロシア語の翻訳と勉強を続ける。翌年にかけて「楽水雜記」と題するノート作成。北海道の同窓生らを訪ね、東北を回って戻る途中、福島事件に遭遇し取り調べを受ける。旅行中に「人世必要の学問を論ず」を執筆し、(東京経済雑誌)に投稿して掲載される。

新体詩抄・1882＝19歳：(東京経済雑誌)に「我邦今日の急務を論ず」が掲載。脳病が再発し、一時転地療養。

岩倉具視没・1883＝20歳：東京経済雑誌社への就職活動を行うが失敗し、渡米するも、脳病が再発したらしく、

秩父事件・1884＝21歳：帰国。「近時不景気ノ源因及救済策」を執筆(未発表)。

日開発足・1885＝22歳：(毎日新聞)の紙名改称記念懸賞論文に応募し、三等に入選、家出し、所在不明となる。

帝国大学始・1886＝23歳：栃木県で子どもたちに漢籍を教えていたらしい。矢野龍溪・若林柑蔵の3人で瀧頭村旅行。

国民之友始・1887＝24歳：母が死去。\_矢野龍溪が建直した(郵便報知新聞)の客員となり、同時に東京専門学校で学ぶ。(日本之時事)に最初の小説「加利保留尼亞」を連載。報知社の初仕事として「内外百事便覧」の編集を担当し、

初の対等条約1888＝25歳

帝国憲法公布1889＝26歳：父が再婚。\_刊行。

帝国議会始・1890＝27歳：琵琶湖疎水開通式に出席し豊橋に立寄る。\_(郵便報知)に小説を連載するうち、「小説家」が出世作となる。

大津事件・1891＝28歳：\*家庭小説の元祖「小猫」で人気作家の地位確立、森田思軒下の「報知の四天王」となるが、尾崎行雄らが主導権を握り、全員退社のなか客員となり、

大本教・・・1892＝29歳：\_小説連載を続け、博文館「少年文学シリーズ」として「紀文大尽」「近江聖人」を刊行。

郡司千島探検1893＝30歳：栃木県で教え一高生となった小平浪平が度々来訪始める。\_(郵便報知)ほか諸紙に小説多数を連載。

日清戦争始・1894＝31歳：小平に進路助言。父が死去。\_(郵便報知)建直の間、(都新聞)ほか小説連載続け、「桜の御所」を刊行。

日清戦争終・1895＝32歳：\_(報知)へ復帰し編集総務となるも、連載・刊行続く。

白馬会・・・1896＝33歳：\_(報知)建直しが軌道に乗り、編集総務の職を辞して小説執筆に専念。長期連載「日の出島」を開始。

八幡製鉄始・1897＝34歳：川上音二郎の川上座が「両美人」を公演。

市村座が「芙蓉峰」翻案の「大起業」を公演。

Bushidou・1899＝36歳：妹が東京外国語学校時代の友人と結婚。\_愛知のポンプメーカーに出家、筆頭株主(実質的経営者)となる。

ピアノ国産化・1900＝37歳：多嘉子と結婚。\_相変わらず連載・刊行続く。

田中正造直訴1901＝38歳：長女米子が誕生。\_大磯の後藤象二郎の別荘に一時転居し実業の日本社長増田義一と初面談。「二十世紀の予言」を連載。「日の出島」の連載終る。批判的立場から「新篇百道楽の第一」の「釣道楽」を連載・刊行し、

教科書疑獄・1902＝39歳：斎藤緑雨や小杉天外と交友。「近江聖人」英訳が出る。\_(狐道楽)「酒道楽」「女道楽」を連載・刊行するうち、

日比谷公園・1903＝40歳：長男誠一が誕生。\*連載の「食道楽」がブームとなり、詳細な注釈や多くの付録をつけて次々出版し大ベストセラー。有楽社創刊の(月刊食道楽)企画に協力。「桜の御所」を原作にした演劇も人気で、三座で競演。

日露戦争始・1904＝41歳：\_(報知新聞)編集局責任者に復帰。日露開戦後、部数が急伸。平塚に広大な土地を購入し自給自足の生活を始める。「戦場必携軍士読本」作成し陸軍に寄贈。自費出版の英文小説「HANA」が海外新聞雑誌に書評多数。

日露戦争終・1905＝42歳：次男忠次が誕生。\_(報知新聞)発刊一万号記念として歌舞伎座で新狂言「阿古屋」「食道楽」二本立て公演するも失敗し、社主三木善八との関係悪化。平塚の自宅で、静岡の仔鹿收容所から来たロシア兵二人に面会。「(英文化)阿古屋」「喜劇脚本酒道楽」「台所重宝記」を自費出版。合本「食道楽全」を刊行。

満鉄発足・・・1906＝43歳：三男賢三が誕生。\_実業の日本社が創刊の(婦人世界)の編集顧問に就任。歌舞伎座が狂言「酒道楽」に続いて「燭風演劇女道楽」を公演するが、不入りで打ち切り。脳病の再発で温泉療治に加え、痔疾と胃腸の不調で、(報知新聞)を退職するも、連載・刊行を続け、劇化の公演も続く。

韓国反日暴動1907＝44歳：次女花子が誕生。

アラクイ創刊・1908＝45歳：痔疾が悪化し、入院・手術。

伊藤博文暗殺1909＝46歳：出張を兼ねて九州知人回り。東京割烹講習会が開始した家庭料理の通信教育の賛助員となる。鼻の手術を受ける。書痙(手の痛み)のため、湯河原で温泉療治。

韓国併合・・・1910＝47歳：三女芳子が誕生。「諸国名産誌」編纂のため全国県庁商工課へ調査依頼。\_書痙と脳病のため温泉療養。(婦人世界)で糠と玄米による脚気治療の効能をアピールし、新聞各紙に脚気患者向けの個人広告を掲載。

大逆事件判決1911＝48歳：\_(婦人世界)に「人情論」「家庭衛生談」を連載し、脚気治療法の集大成として「米食改良論」を掲載。

明治天皇没・1912＝49歳：伊豆の修善寺に滞在して保養。小平浪平に招かれ、多嘉子と共に日立鉱山を見学。

大正政変・・・1913＝50歳：\_大磯で慈善大演芸会を主催、収益金全額を地元の盲人学校に寄付。民間薬のタラの根や西瓜糖を研究。

第一次大戦始1914＝51歳：\_「川合式強健術」創案の川合春充を知って指導を受け、(婦人世界)で紹介。「浄土宗葬儀会葬者必携」「観音鏡法」などを自費制作して寄付。伊豆長岡温泉に別荘建設し、

\*タラの根から抽出した「タラコン湯」の発売免許申請。完成した「対岳荘」で最初の断食を実行。

21ヶ条要求・1915＝52歳：妹茂子が癌で死去。\_二回目の断食。妻多嘉子・幕内力子の黒瀬川に断食を指導。

民本主義・・・1916＝53歳：\_さらに断食の研究を進め、食養と難病治療への関心から「生食」「木食」の実験を開始。岡田虎二郎に「岡田式静坐法」の指導を受ける。(婦人世界)に小説「小松嶋」を連載、最後の小説執筆となる。

ロシア革命・1917＝54歳：\_生食と木食研究に本格的に取り組み、御嶽山の木食行者に取材後、妻子に伴い登山。

本格政党内閣1918＝55歳：\_病氣療養中の甥を伴って西多摩郡御嶽山でテント生活。堅穴式住居を作って本格的な木食・生食生活実験に入り、山中で一人で越冬。この間も、諸実験の結果等の執筆掲載を続ける。

大暴落・・・1920＝56歳：\_穴居生活を終えて、別荘で療養。(婦人世界)に穴居生活に関する記事を連載。

原敬首相暗殺1921＝57歳：\_体調を崩し、不眠とめまいが続く。

水平社結成・1922＝58歳：長女が結婚。\_金策のために各地の知人を訪ね、別荘を手放す。食の研究の集大成「健康食養法」を連載。

関東大震災・1923＝59歳：\_出血と血便があり、自ら癌と診断。紹介で中尾弘明の門人となり、「一元同化力」の治療を受ける。

護憲三派圧勝1924＝60歳：三男が受験失敗で自殺。中尾弘明が死去。\_腸の治療を確信し、「一元同化力」普及のために活動。高所から落ちて結核性の肋膜炎にかかり、その後も胃腸と脳病が悪化。(婦人世界)への執筆を辞退、顧問も辞任。

治安維持法・1925＝61歳：千里眼や透視への関心を深め、評判だった石坂ヤチ子を訪ねる。

円本時代始・1926＝62歳：\*また癌と疑い、断食療法を試み、健康を害して寝込む。以後、来診を拒み面会謝絶を続け、没した。

金融恐慌・・・1927＝63歳

黒岩比佐子「食道楽」の人・村井弦奇、